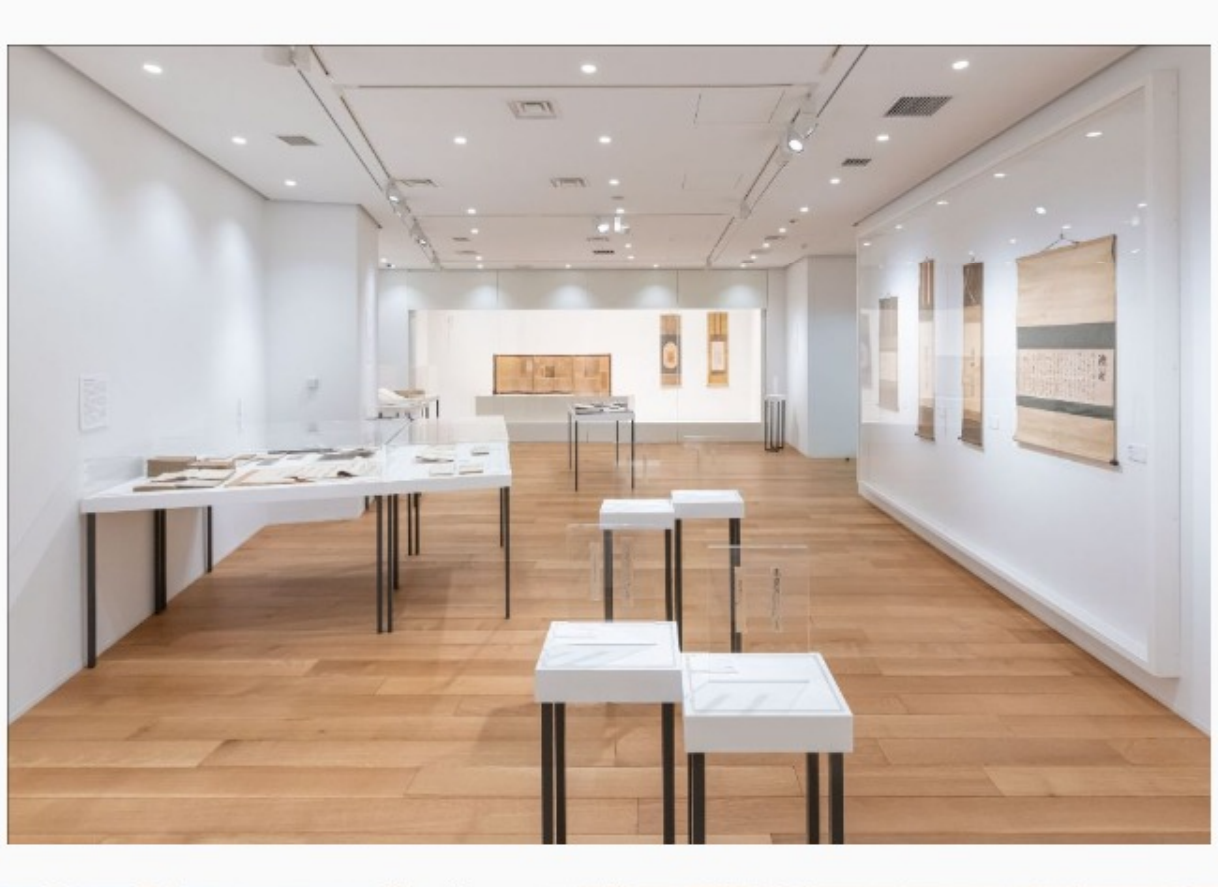
今年度から対面授業になった三田キャンパスは、5月末には慶早戦（早慶戦）も開催され、少しずつですが、学生たちで賑やかなキャンパスに戻りつつあります。KeMCoでも、5/14（土）には久しぶりとなる対面でのシンポジウムが開催されました。
6月の三田キャンパスは、開催中の「書を極める」展のほかにも、慶應義塾大学アート・センターや慶應義塾図書館 展示室、福澤諭吉記念 慶應義塾史展示館などでも企画展が開催されます。
開催中の「書を極める」展は6/24（金）まで。この機会に三田のアート探索に出かけてみてはいかがでしょうか。

KeMCoの近況

【～6/24（金）まで】 センチュリー赤尾コレクション × 斯道文庫
書を極める：鑑定文化と古筆家の人々

鑑定の結果は「極札（きわめふだ）」と呼ばれる鑑定書で知らせました。
展示室では極札を両面からご覧いただけます。

「書を極める」展では、センチュリー赤尾コレクションを中心に、古筆切など筆跡鑑定を行った「古筆家」や鑑定文化について展示しています。
会期は**6/24（金）までで**事前予約制。6/18（土）には特別開館日もございますので是非お越しください。



Room2では、古筆家や鑑定に関する書籍や資料に触れることができるほか、
1枚の紙を2枚に分ける技術「相剥ぎ」を体験できます。

「古筆切」や「古筆家」については、KeMCoのnoteでもご紹介しています。ぜひこちらもご覧ください。

書を極める：鑑定文化と古筆家の人々

会期｜**～2022年6月24日（金）**11:00—18:00
*土日祝休館　*6月18日（土）は特別開館　*6月13日（月）は臨時休館
会場｜慶應義塾ミュージアム・コモンズ展示室（三田キャンパス東別館）
対象｜どなたでもご覧いただけます
費用｜無料 [事前予約制]

主催：慶應義塾ミュージアム・コモンズ、慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
協力：慶應義塾大学三田メディアセンター

KeMCo StudI/O特別開室日
2022年6月18日（土）、6月24日（金）

※「書を極める」展のご予約が必要です。
※開室日時・時間は変更になる可能性がありますのでご注意ください。

書を極める展　ご予約はこちら

【論文募集】新しいKeMCoの紀要論文「The KeMCo Review 01」への論文を募集

The KeMCo Review
創刊号
論文募集
プロポーザル〆切＝2022年6月30日（木）

KeMCoの活動に関連する諸領域における、学内外の研究や実践を共有化してゆくための学術誌、**「The KeMCo Review」**（ケムコレビュー）を、2023年3月に発刊いたします。
本誌はオープンアクセス誌として、オンラインで広く公開されます。みなさまの研究、実践の成果を、この機会にぜひご共有くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

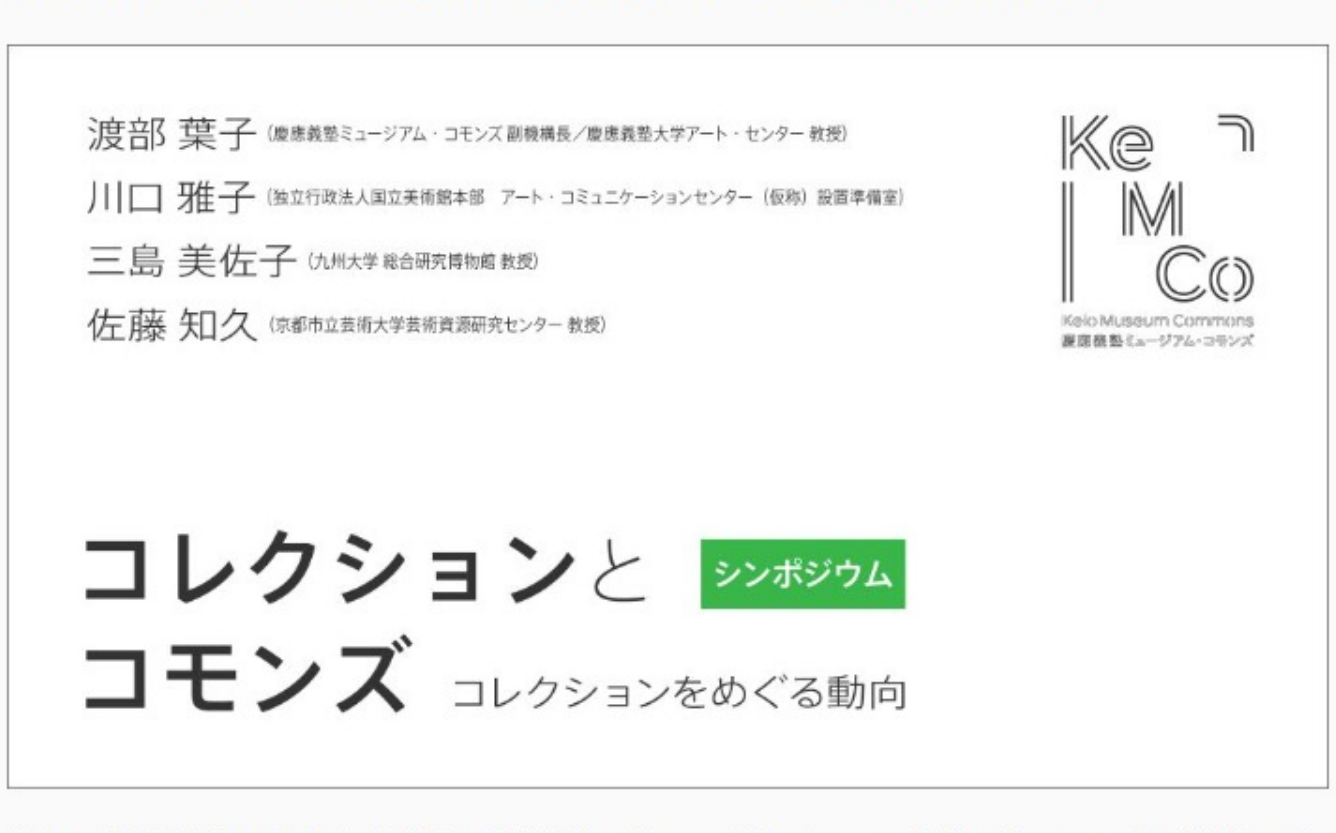
プロポーザル〆切＝2022年6月30日（木）
原稿提出〆切＝2022年9月20日（火）

募集論文の種類
特集論文
特集のテーマは、「オブジェクト・ベースト・ラーニング」です。テーマ設定について詳しくはリンクをご覧ください。

一般論文、研究ノート
KeMCoの活動に関連する諸領域を対象とした論文および研究ノートを募集します。詳しくはリンクをご覧ください。

The KeMCo Review

シンポジウム「コレクションとコモンズ：コレクションをめぐる動向」


渡部 葉子（慶應義塾ミュージアム・コモンズ 副機構長／慶應義塾大学アート・センター 教授）
川口 雅子（独立行政法人国立美術館本部　アート・コミュニケーションセンター（仮称）設置準備室）
三島 美佐子（九州大学 総合研究博物館 教授）
佐藤 知久（京都市立芸術大学芸術資源研究センター 教授）
Ke M Co
Keio Museum Commons
慶應義塾ミュージアム・コモンズ
コレクションと
コモンズ
シンポジウム
コレクションをめぐる動向

近年の社会構造の変化や情報化の進展は、ミュージアム・ライブラリ・アーカイヴ等の文化機関におけるコレクションの管理や活用のありかたにも影響を与えています。学問領域や組織を横断して機能するプラットフォームの登場によって、「情報」としてのコレクションの可視化と共有化が進むなかで、今回のシンポジウムでは、実体物としてのコレクションに焦点をあて、その共有化をめぐる動向と課題について考えます。

たとえば、コレクションを一カ所に集めるのではなく、いまある場所での活動や人との結びつきを保ったまま、共有と活用を進めるためにはどうすればよいのか。あるいは、所有者／管理者に限らない、様々な人々が、コレクションの研究や教育、保存や活用に多様なレベルで関わる環境をどのように整えてゆけばよいのか。

このような問いを出発点として、来歴の記述、コレクションのインテグレティ、コミュニティ・アーカイヴ、ミュージアムと地域の協働といった切り口から、様々な場所における実践事例を紹介し、ディスカッションを行うことによって、これからの社会におけるコレクションの共有化について考察する端緒とします。

日時｜6/11（土）13:00-16:00 ［16:00-18:00 KeMCo見学会］
場所｜慶應義塾大学三田キャンパス 東館8Fホール／オンライン［ハイブリッド開催］
対象｜どなたでもご参加いただけます。ご参加には事前申し込みが必要です。**(6/8（水）22：00締切)**
費用｜一般：2,000円／学生：無料
（アート・ドキュメンテーション学会 会員・賛助会員 1,000円／学生会員 無料）
お問い合わせ｜
お申し込みに関するお問い合わせ：JADS年次大会実行委員会　jads_conf2022@googlegroups.com
企画内容に関するお問い合わせ：慶應義塾ミュージアム・コモンズ　hello@kemco.keio.ac.jp
主催｜慶應義塾ミュージアム・コモンズ、アート・ドキュメンテーション学会

シンポジウム「コレクションとコモンズ」

【開催レポート】シンポジウム｜鑑定とは何か：江戸時代鑑定文化の再評価

5/14（土）、シンポジウム「鑑定とは何か：江戸時代鑑定文化の再評価」が三田キャンパス東館にて開催されました。
シンポジウムの前半では、廣海伸彦氏（出光美術館主任学芸員）「狩野家の絵画鑑識――極（きわめ）の世界に偽詐多く、疑ひの世界に真理多し」、中村健太郎（帝京大学短期大学人間文化学科講師）「極札（きわめふだ）を極める」、佐々木孝浩（慶應義塾大学附属研究所斯道文庫教授）「『でたらめだ』なんていわないで：筆跡鑑定というお仕事」の3つの講演が行われました。

後半のディスカッションと質疑応答では、書物史学、美術史学等の学問の領域をまたぎ広く「鑑定」を切り口に意見を交わしました。
「鑑定」の起源やその必要性、江戸時代に鑑定文化が花開いた理由等の大きな話題から、鑑定書の言い回しや、重鑑定（過去に鑑定された作品を重ねて鑑定すること）の理由など、深掘りした話題もとりあげ、現在の研究の状況と、「鑑定文化」研究のこれからに必要なことは何かを話し合いました。

書を極める
鑑定文化と古筆家の人々
5/14
13：30－
鑑定とは何か
江戸時代鑑定文化の再評価

アーカイブはYouTubeでご覧いただけます

【開催レポート】「書を極める」展ギャラリートーク

開催中の「書を極める」展のギャラリートークが5/23（月）にKeMCo3F 展示室にて開催されました。ギャラリートークは本展を監修した佐々木孝浩教授（斯道文庫）をお招きし、本展の経緯や展示作品の解説、書の鑑定活動を行っていた古筆家について詳しく解説がされました。

ギャラリートークのアーカイブはYouTubeでもご覧いただけます。

「書を極める」展ギャラリートーク

「我に触れよ」展記録集 委託頒布が始まりました

Exhibition Record Book
Tangite me:
Reconsidering Conservation during the Pandemic

2021年10月から12月に慶應義塾大学アート・センターおよびKeMCoで開催された展覧会から、ワークショップ、シンポジウムなどの会期中のイベントまで、レポートを掲載した「我に触れよ」展記録集。
既にアート・センターとKeMCoで販売しておりますが、この度、松本工房オンラインショップ、NADiff a/p/a/r/t（恵比寿）、NADiff contemporary（東京都現代美術館内）、Contrepoint（水戸芸術館 ミュージアムショップ）でもお取り扱いがはじまりました。

ご希望の方はこの機会にお求めください。

「我に触れよ」展 記録集

展示室より、推しモノ #11

こんにちは、KeMCoMのYukihiroです。私は学部生・大学院生が分野を超えて集まるKeMCoMのメンバーとして、KeMCoで展覧会が開催される度に、その展覧会に関連した様々な企画・制作に取り組んでいます。

現在開催中の「書を極める：鑑定文化と古筆家の人々」では、欠けて本としての価値が低くなった古写本類を分割・切断し、書を鑑賞する美術品として再生させた「古筆切」を展示していますが、今回の展覧会のためにKeMCoMが企画した「相剥ぎデコラボ」では、古筆切を制作する際に使われる「相剥ぎ」（紙の表面と裏面を分離させる手法）を来場者の皆様に体験いただくとともに、自由な発想で和紙をデコレーションいただける場をご用意しています。
「相剥ぎデコラボ」は、この展覧会のために制作した「モバイルガイド」や「Instagramフィルター」と併せ、展示室（Room2）にてご案内しています。ご自身で剥いだ紙をお土産としてお持ち帰りいただくこともできますので、KeMCoへお越しの際は是非お立ち寄りください。

Yukihiro（KeMCoM）

空き地

昨年4月よりKeMCoで、学生学芸スタッフ(KeMiCo)をしている佐藤です。
次第に日が長くなり、そろそろ本格的に夏を迎える準備を始めようかと思っている今日この頃です。4月に開幕いたしました「書を極める：鑑定文化と古筆家の人々」展も、会期残り数週間となりました。三田一帯は、数年ぶりに戻ってきた学生たちで賑わいを取り戻しつつあります。三田キャンパスには、KeMCo以外にも慶應義塾図書館 展示室や、慶應義塾大学アート・センターなど、様々な展覧会を開催しているスペースがあります。加えて、数々の屋外彫刻のほか講義が行われる建築物など、様々なアートに囲まれた空間です。ふとした瞬間に心を寄せることができる作品たちに囲まれている、とても心強く豊かな環境ではないでしょうか。KeMCoは、(展覧会はもちろん)学生生活のひとときを共にできる「空き地」になれるよう、日々楽しく奮闘しております…！今後ともKeMCoの取り組みをどうぞ暖かく見守っていただけましたら幸いです。

佐藤　小百合（KeMiCo）

お知らせ

三田でご覧いただける展示

「今宵逢ふ文(ふみ)みなうつくしき-慶應義塾図書館新収資料展2022-」
【後期／和漢書展示】5/9（月）-6/11（土）
慶應義塾図書館 1階展示室

「スタンディング・ポイントIII ハンネ・ダルボーフェン」
5/9（月）-6/24（金）
慶應義塾大学アート・センター

「2022年度春季企画展 慶應野球と近代日本」
6/6（月）-8/13（土）
福澤諭吉記念 慶應義塾史展示館

KeMCo Voiceでは皆様のご意見・ご感想を募集しております

KeMCo Voiceやミュージアム・コモンズへご意見・ご感想がございましたら、以下のアドレスまでお寄せいただければ幸いです。
いただきましたご意見は匿名でご紹介させていただく場合がございます。紹介をご希望でない場合はその旨をお書き添え下さい。

> ご意見・ご感想はこちら

次回のKeMCo Voiceは2022年7月に配信予定です。
過去のニュースメールはこちら

Copyright © 2019-2022 慶應義塾ミュージアム・コモンズ　Keio Museum Commons

〒108-8345　東京都港区三田2-15-45
Tel:　03-5427-2021　Fax:　03-5427-2022
お問い合わせ

KeMCo Voiceの配信停止をご希望の方はこちら

This email was sent to <<Email Address>>
why did I get this?　unsubscribe from this list　update subscription preferences
慶應義塾ミュージアム・コモンズ · 2-15-45Mita · Minato-ku, Tokyo 108-8345 · Japan